

地域連携推進会議 議事録

<p>1. 日時</p> <p>令和8年4月26日（日） 10:00～12:20</p>
<p>2. 場所</p> <p>みのりほーむ栗山</p>
<p>3. 出席者（構成員）</p> <ul style="list-style-type: none">• 理事長：立田 芳弘 氏（司会）• 利用者代表：伊佐 将志 氏• 中核地域生活支援センターいんば：小林 雄一 氏• 利用者の保護者代表：佐治 洋之助 氏• 四街道市障害者親の会：穴澤 悦子 氏• 近隣グループホームだんらん 管理者：清水 真奈美 氏（地域代表兼務）• みのりほーむ 管理者：瀬浪 真子
<p>4. 議事次第</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 開会挨拶・構成員自己紹介(2) DVD 視聴（グループホームの生活の様子） 法人概要および各ホームの現状報告(3) グループホーム見学（みのりほーむ栗山・みのりほーむ3・みのりほーむ2・みのりほーむワタナベ）(4) 意見交換・質疑応答(5) 閉会 <p>5. 議事概要</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 開会挨拶・構成員自己紹介 <p>立田理事長より、本会議の委員任期を2年間（令和7年度～8年度）とすることが提案され、承認された。続いて各委員より自己紹介が行われた。清水氏からは「自治会が同じなので地域代表としても活動可能」との申し出があり、地域・福祉の両面で助言をいただくこととなった。</p> <ol style="list-style-type: none">(2) DVD 視聴と現状報告 <p>DVDを通じ、買い物やいちご狩り、節分（コロナ鬼退治）、ポッチャやソフトボールなどの余暇活動の様子を視聴。その後、瀬浪より各ほーむの就労状況について以下の通り報告した。</p> <ul style="list-style-type: none">• 多くの利用者が一般就労（ユニクロ、ホテル、食品会社、郵便局、農園等）や就労継続支援事業所に通っており、自立した生活を送っている。• 1月に発生した夜間外出事案について、近隣住民がインターホンでの助けに応じ警察へ繋いでくださった事例を共有。現在は安全対策としてGPSを導入し、見守り体制を強化している旨を報告した。 <ol style="list-style-type: none">(3) グループホーム見学 <p>「みのりほーむ栗山」「みのりほーむ3」「みのりほーむ2」「みのりほーむワタナベ」の居室や共有スペースを見学。バリアフリー設計や、個人のプライバシーに配慮した部屋作り、お小遣い管理や献立表による見通しを持った生活支援の工夫について説明が行われた。</p>

(4) 意見交換・質疑応答

- 地域の人材活用と連携（清水氏）：「だんらん」で地域連携推進会議を行った際、身近な地域の方の中に以前の仕事を活かしてホームの力になれるという情報があり、実際に現在スタッフとして働いてもらっている事例を紹介。声をかけあうことで、身近な場所にホームの助けとなる人材がいる可能性があるため、今後も情報共有を大切にしたいとの提案があった。
- 相談窓口の課題（佐治氏）：家族が困っていても、どこにどう相談すれば良いか最初の突破口が分からないのが現実。行政や支援センターがあるのは知っていても、そこへ辿り着くまでの情報や、話し出すまでの心理的ハードルが高い。
- 区分と支援のモチベーション（立田理事長・小林氏）：支援区分が上がれば運営費は増えるが、支援者としては「区分が下がる（自立に近づく）」ことへのやりがいとの間で葛藤がある。小林氏からは「区分に関わらず、一人ひとりの課題に寄り添う姿勢が大切」との意見があった。

(5) 閉会

立田理事長より、長年の付き合いがあるメンバーだからこそその忌憚のない意見交換ができたことへの謝辞があり、閉会となった。

